

112 学年度第一学期ユーラシア財団 (from Asia) 国際講座
「アジア共同体：東アジア学の構築と変容」シリーズ講座 (8)
テーマ：米中貿易戦争後における台湾とアメリカ、日本、欧州連合
(EU) との経済貿易関係の影響と協力関係の発展

林 冠汝 教授 (第八講座 / 要約)

2023.11.02

はじめに

台湾の主要な貿易相手地域は中国、アメリカ、日本、東南アジア、欧州連合 (EU) などです。そのため、2018 年から始まった米中貿易戦争、2020 年のコロナ禍、2022 年のロシア・ウクライナ戦争など、これらの出来事は台湾の産業チェーンと戦略的位置の重要性を一層高めます。よって、台湾はアメリカや日本と積極的に経済貿易と外交の協力を推進しており、一部の EU 加盟国も台湾を支持しています。台湾にとって、上記の地域との経済貿易状況や経済貿易協力は重要な議題となります。

1. 米中貿易戦争後、世界と台湾への影響

米中貿易戦争後、アメリカの中国への位置づけが「戦略的パートナー」から「戦略的競争相手」に変わりました。中国が台湾最大の貿易相手国であるため、米中貿易戦争は自然に兩岸の貿易と産業供給チェーンに影響を及ぼしました。台湾の産業に与える影響を軽減するために、台湾政府は、グローバルな生産配置の再調整などの戦略で対応、台湾企業が台湾に投資することを奨励し、またはそれぞれの産業特性によって東南アジアや欧米などの海外拠点に分散することを推進しました。

2. 台米間の経済貿易と協力関係の展開

米中貿易戦争後、両国の関係は「戦略的パートナー」から「戦略的競争相手」へと転換しました。さらに、コロナ禍の影響により、各国は中国に対して警戒心を抱くようになりました。一方で、台湾は疫情を効果的に制御し、国際的な医療支援活動を展開しました。さらに台湾の戦略的位置、経済力、および半導体産業の世界的な重要地位が考慮され、アメリカは台湾とさまざまな法案に署名し、台米の経済貿易および外交協力を積極的に推進しています。

3. 台日間の経済貿易と協力関係の展開

台湾と日本は 1972 年に断交以降、正式な外交関係を持っていませんでした。しかし、2011 年 3 月 11 日東日本大震災の後、台湾は日本への寄付金が世界一となり、それにより日本政府と国民の間で台湾への関心が高まりました。2012 年、安倍晋三が再び首相に就任した後、台日間の交流を積極的に推進しました。米中貿易戦争後、アメリカの中国への立場が変化する中で、台湾と日本は経済貿易、政治、外交などでの協力と交流が以前よりも盛んになっています。

4. 台湾と EU との経済貿易と協力関係の展開

2020 年のコロナ禍以降、台湾と EU との間、医療協力の増加、産業協力の強化、外交協力の拡大、台湾の戦略的位置の重要性に関する声明の発表など相互作用が徐々に活発化してきています。

2021 年 10 月 21 日、欧州議会は初の「EU と台湾との政治関係と協力」報告書を可決し、EU 加盟国に台湾の関係への強化を求めました。2022 年 11 月、EU は「台湾海峡」決議文を採択し、台湾海峡の安全保障に焦点を当てるとともに、EU 委員会と台湾との間で速やかに EU-台湾「二国間投資協定 (BIA)」の締結を要求し、サプライチェーンの弾力性を高めるよう呼びかけました。

むすび

台湾とアメリカと日本とは正式な外交関係はありませんが、過去 3 年間で台湾とアメリカ、日本、EU との経済、貿易政策、外交などの協力及び交流は続いています。また、台湾は中国と緊張関係にあり、アメリカと日本は公式及び非公式で代表団の派遣が大幅に増加しており、国際社会は台湾の安全と自由を支援し、台湾との友好関係を強化しようとしています。

中国語：涂玉盞
日本語訳：陳順益